

口腔病学会共催 歯学部新教授による講演会のお知らせ

2021年11月11日(木) 17:30~19:30

登録制 Zoom 配信のため、事前登録が必要です

『光干渉断層計 (OCT) を用いた齲蝕の診断』

島田 康史 教授 (う蝕制御学分野)

光干渉断層計 (Optical Coherence Tomography, OCT) は光を用いて断層画像を撮像する装置であり、光を透過する組織や生体材料の状態を高解像度で観察することができます。OCT は放射線を用いないので、生体への被曝リスクを伴わず、妊婦や小児にも安心して使用できる口腔内の画像診断、また様々な医療現場で撮影を行うことができる持続可能な医療技術としても注目されています。歯科用 OCT の実用化に向けた研究が本邦にて先端的にすすめられ、歯科領域における医療用機器として世界初の認可が得られています。OCT 画像における齲蝕の描出は、病変部歯質の光学的性質の変化に立脚し、特に初期齲蝕に対する感度が高く、特異度も優れ、齲蝕と健全部を正確に診断できることが示されています。OCT を用いた齲蝕診断の現状と今後の展望について概説したいと思います。

『咬合機能健康科学分野が目指す研究』

笛木 賢治 教授 (咬合機能健康科学分野)

大学院医歯学総合研究科では、従来の「補綴装置ごとの教育内容に基づく分野構成」から、「歯科補綴学に関連する研究内容に基づく構成」に方針を変更し、補綴系分野の再編を行いました。咬合機能健康科学分野は、補綴治療による咬合・咀嚼機能の回復と保全が健康増進にどの程度関連するか明らかにする研究を担います。本講演では、私がこれまでにやってきた咀嚼機能に関する研究、補綴治療に関する臨床研究をご紹介します。今後の研究の展望をご説明させていただきます。

『口腔再生医療・インプラント治療における今後の展望』

丸川 恵理子 教授 (口腔再生再建学分野)

1965年に世界初の純チタンによるスクリュータイプのデンタルインプラントシステムの臨床応用が開始されてから56年が過ぎました。様々な研究が進み、その生存率は高く、非常に安定した結果が得られています。しかし、一定数のインプラント周囲炎、脱落が生じることが問題であり、インプラントの周囲環境をいかに低侵襲で最良の状態に整えられるか(骨・歯肉再生等)が今後の重要課題です。これからの本学における研究内容、治療方針等について、ご紹介したいと思います。



下記サイトもしくはQRコードより事前登録の方に、参加確認メールをお送りいたします。当日は本学の機関登録をしたZoom IDでログインしてください。

<https://zoom.us/meeting/register/tJMpde2pqD0pE9FhOMrQmX2mQKBI8s25E-N>

※問い合わせ 咬合機能矯正学分野 小野卓史・松本芳郎 (口腔病学会例会担当)

内線 5527 y.matsumoto.orts@tmd.ac.jp